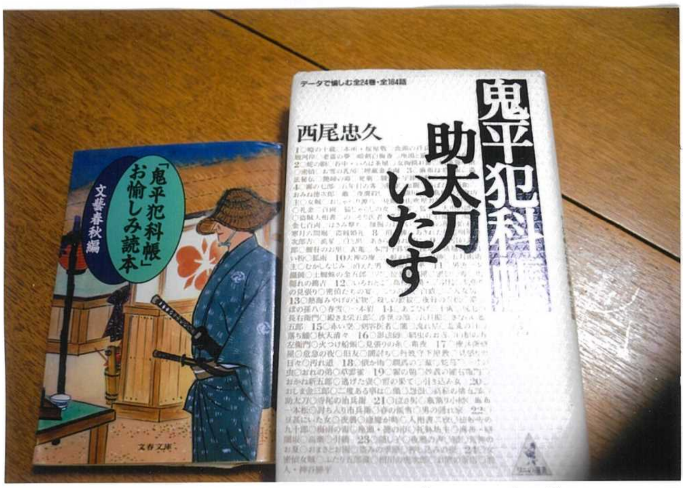
発行月：令和 6 年 7 月　**家族新聞**　第 900 号

環境教育「まず、今できることから」

歴史に学ぶ

発行所：地域環境活性化協議会
編集者：代表幹事 髙橋賢一
連絡先：市民活動支援センター
尾張旭市渋川町三丁目5番地7
（渋川福祉センター内）
TEL 0561-51-2878

鬼平犯科帳を助太刀いたす



小説は面白くなくてはならない。小説に接する態度の極意は、自分の心を柔らかにほぐして、できるだけ鋭敏にととのえる心構えである。

鬼平シリーズの興味は単に謎ときや追捕ではなく、同心多数の登場する火付盗賊改方に対し、江戸の暗黒面に生きる盗賊連中が次々とあらわれる物語の面白さにあり同時に現代を見る視座にすえ、人間不変の姿をそこに描き出すことにつとめている点に特色がある。男女と問わぬ変らない姿―それを食・衣・住などの側面から照射し。現代人とも等身大の人物の造形に成功している。

さすがに成熟は古とともにありの池波正太郎流が出ている。

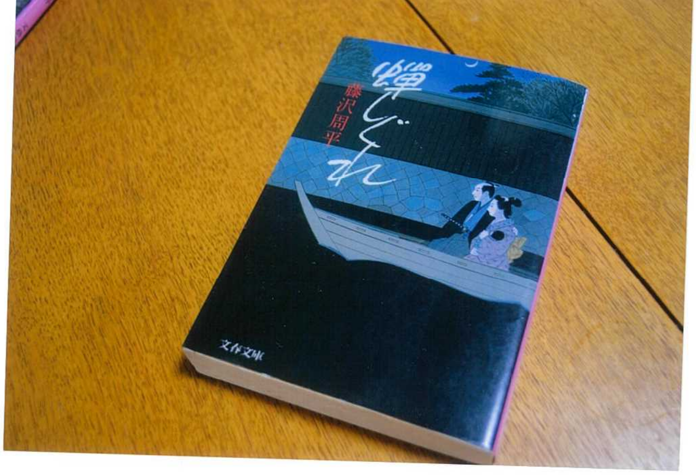
長谷川平蔵、宣以（のぶため）
火盗改メ中村吉右衛門
テレビ化しておまさ」
梶芽衣子画面にこの二人がテレビに撮ると決まる。

藤沢周平の世界

烈しい郷愁、
「蟬しぐれ」

海坂藩普請組の組屋敷にはほかの組屋敷や足軽屋敷には見られない特色がひとつあった。組屋敷の裏を小川が流れていて、組の者がこの幅六尺に足りない流れを至極重宝にして使っていることである。

城下からほど遠くはない南西の方角に、起伏する丘がある。小川はその奥深い懐から流れくだる幾本かの水系のひとつで、流れはひろい田圃を横切って組屋敷がある城下北西の隅にぶつかったあとは、すぐにまた町からはなれて蛇行しながら北東にむかう。



この「蟬しぐれ」は、時代小説ではなかった。歴史小説でもなかった。新しい時代小説であった。

冒頭の「朝の蛇」の章を読む。

全体の街の描写があって主人公の住居があってその位置、身分が明らかになって、十五歳の若者が潑溂たるイメージで起ち上がってくる。

そこのところがすこしもくだくだしくない。

淡彩なのに、明度が高いので、物や事の細部がくっきりしている。